



平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年2月4日

上場会社名 参天製薬株式会社

上場取引所 東

コード番号 4536 URL <http://www.santen.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長兼CEO (氏名) 黒川 明

問合せ先責任者 (役職名) コーポレート・コミュニケーショングループ (氏名) 日比 貴史

TEL 06-4802-9434

四半期報告書提出予定日 平成26年2月7日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト、機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	108,946	23.2	23,633	14.9	24,297	14.2	15,376	8.8
25年3月期第3四半期	88,425	2.3	20,572	△7.4	21,269	△7.7	14,136	△4.3

(注) 包括利益 26年3月期第3四半期 22,656百万円 (62.9%) 25年3月期第3四半期 13,910百万円 (△0.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	186.32	185.74
25年3月期第3四半期	166.30	166.09

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期第3四半期	218,750	178,417	81.4	2,156.46
25年3月期	199,640	165,132	82.6	1,998.44

(参考) 自己資本 26年3月期第3四半期 178,005百万円 25年3月期 164,808百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	50.00	—	50.00	100.00
26年3月期	—	50.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	50.00	100.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	149,000	25.1	26,500	7.4	27,500	7.4	17,500	5.9	207.43

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

上記は、平成26年3月期に実施する当社グループの決算期統一の影響を含んだ予想数値です。詳細は、添付資料7ページ「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

なお、当第3四半期連結会計期間より、参天医薬販売(蘇州)有限公司およびサンテン・ファーマシューティカル・アジア・プライベート・リミテッドを新たに設立したため、連結の範囲に含めています。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 有

③ 会計上の見積りの変更 : 有

④ 修正再表示 : 無

(注)詳細は、添付資料8ページ「2.サマリー情報(注記事項)に関する事項(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

26年3月期3Q	82,547,303 株	25年3月期	82,469,103 株
----------	--------------	--------	--------------

② 期末自己株式数

26年3月期3Q	2,119 株	25年3月期	900 株
----------	---------	--------	-------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年3月期3Q	82,526,637 株	25年3月期3Q	84,999,207 株
----------	--------------	----------	--------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいています。実際の業績は、事業環境変化、新薬の承認時期、為替レート変動、医薬品行政の動向など様々な要因により大きく異なる結果となる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	6
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	7
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	8
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	8
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	8
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	8
3. 四半期連結財務諸表	9
(1) 四半期連結貸借対照表	9
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	11
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	12
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	13
(継続企業の前提に関する注記)	13
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	13
(セグメント情報等)	13
4. 連結参考資料	14
(1) 主要製品売上高	14
(2) 医薬品開発状況	15
(3) 設備投資、減価償却費および研究開発費の実績ならびに見込額	17

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

① 当第3四半期連結累計期間の業績の状況

国内医療用眼科薬市場は、網膜疾患治療剤および角結膜疾患治療剤、緑内障治療剤等の伸長により、前年同期と比べ拡大しました。海外医療用眼科薬市場は、欧州・アジアでは堅調に推移しました。国内一般用眼科薬市場は、前年同期と比べほぼ横ばいで推移しました。

このような状況下、当第3四半期の業績は、以下のとおり増収増益となりました。

(単位：百万円)

	前第3四半期	当第3四半期	前年同期増減率
売上高	88,425	108,946	23.2%
営業利益	20,572	23,633	14.9%
経常利益	21,269	24,297	14.2%
四半期純利益	14,136	15,376	8.8%

[売上高]

前年同期から23.2%増加し、1,089億4千6百万円となりました。

これは、主力の国内医療用医薬品事業における、緑内障・高眼圧症治療剤「タプロス点眼液」、「コソプト配合点眼液」、角結膜疾患治療剤「ジクアス点眼液」、また平成24年11月に発売した眼科用VEGF阻害剤「アイリーア硝子体内注射液」等の成長に加えて、海外における普及促進活動により、当社製品の市場浸透が進んだことによるものです。

[営業利益]

前年同期から14.9%増加し、236億3千3百万円となりました。

売上原価は425億7千1百万円となり、売上原価率は39.1%となりました。販売費及び一般管理費については427億4千万円となり、このうち研究開発費は124億9千8百万円となりました。

[経常利益]

前年同期から14.2%増加し、242億9千7百万円となりました。

[四半期純利益]

前年同期から8.8%増加し、153億7千6百万円となりました。

② 当第3四半期連結累計期間のセグメント別業績の状況

参天製薬グループは、医薬品事業とその他の事業セグメントから構成されます。売上高の多くは医薬品事業によっており、その全売上高に占める比率は98.0%になります。

医薬品事業の売上高は、前年同期から23.1%増加し、1,068億2千1百万円となりました。営業利益は、239億9千6百万円となりました。一方、その他の事業の売上高は、前年同期から31.6%増加し、21億2千4百万円となりました。営業損失は、3億6千3百万円となりました。

(単位：百万円)

	国内		海外		合計	
	金額	前年同期増減率	金額	前年同期増減率	金額	前年同期増減率
医薬品事業	89,381	22.1%	17,439	28.0%	106,821	23.1%
医療用医薬品	84,459	24.2%	17,411	27.9%	101,870	24.8%
うち眼科薬	75,938	27.6%	16,907	26.9%	92,845	27.4%
うち抗リウマチ薬	7,980	4.2%	71	12.2%	8,051	4.2%
うちその他医薬品	540	△32.6%	432	85.5%	972	△6.0%
一般用医薬品	4,922	△5.1%	28	214.5%	4,951	△4.7%
その他の事業	2,087	33.9%	36	△32.5%	2,124	31.6%
医療機器	1,897	22.4%	36	△32.5%	1,934	20.5%
その他	189	—	—	—	189	—
合計	91,469	22.4%	17,476	27.8%	108,946	23.2%

(注) 各セグメントの売上高は、外部顧客に対する売上高を表しています。

[医薬品事業]

(医療用医薬品)

<眼科薬>

[国内]

医療施設ごとの潜在ニーズとその変化を的確に捉えた医薬情報提供などの普及促進活動を展開し、国内医療用眼科薬の売上高は、前年同期と比べ27.6%増加し、759億3千8百万円となりました。

緑内障・高眼圧症の治療ニーズに合致した「タプロス点眼液」は順調に市場浸透した結果、売上高は前年同期と比べ11.6%増加し、66億1千6百万円となりました。また、「コンプト配合点眼液」の売上高は、前年同期と比べ35.7%増加し、92億2千6百万円となりました。

角結膜疾患治療剤領域では、ドライアイ（眼球乾燥症候群）などに伴う角結膜上皮障害の治療剤「ヒアレイン点眼液」の売上高は、前年同期と比べ0.7%減少し、142億6千4百万円となりました。また、「ジクアス点眼液」は、順調に市場浸透した結果、売上高は、前年同期と比べ41.2%増加し、56億9千9百万円となりました。

合成抗菌点眼剤領域では、市場環境の変化などの影響により、「クラビット点眼液」、「タリビッド点眼液」両剤合わせた売上高は、前年同期と比べ5.2%減少し、72億5千7百万円となりました。

抗アレルギー点眼剤領域では、平成25年はスギ花粉の飛散が早期に終息したこともあり、「リボスチン点眼液」の売上高は、前年同期と比べ24.9%減少し、13億7千1百万円となりました。また、新製品「アレジオン点眼液」を平成25年11月に発売しました。

網膜疾患治療剤領域では、滲出型加齢黄斑変性治療ニーズに応える新製品「アイリーア硝子体内注射液」を平成24年11月より発売し、売上高は133億2千7百万円となりました。

[海外]

海外における医療用眼科薬の売上高は、円換算ベースで前年同期と比べ26.9%増加し、169億7百万円となりました。

欧州では医薬情報提供などの普及促進活動に注力した結果、緑内障・高眼圧症治療剤「タフロタン」が市場に浸透してきました。

アジアにおいても、主力品の普及促進活動の展開により、中国、韓国を中心に、当社製品の市場浸透が進みました。

<抗リウマチ薬>

抗リウマチ薬の売上高は、「リマチル錠」、「アザルフィジンEN錠」ならびに「メトレート錠」が、国内において関節リウマチ治療ガイドラインで強く推奨される製剤に位置付けられていることもあり、前年同期と比べ4.2%増加し、80億5千1百万円となりました。

<その他医薬品>

その他医薬品には、技術提携（導出）契約に基づく収入、受託製造等が含まれます。

その他医薬品の売上高は、前年同期と比べ6.0%減少し、9億7千2百万円となりました。

(一般用医薬品)

一般用医薬品の売上高は、「サンテFX」シリーズ、「サンテメディカル」シリーズを中心に販売促進活動に注力しましたが、前年同期と比べ4.7%減少し、49億5千1百万円となりました。

[その他の事業]

(医療機器)

医療機器の売上高は、高屈折率の亚克力素材を光学部に用いたフォールダブル眼内レンズ「エタニティー」シリーズの普及促進活動に注力した結果、国内の売上高は順調に伸長し、前年同期と比べ20.5%増加し、19億3千4百万円となりました。

(その他)

その他の売上高は、(株)クレール（連結子会社）での無塵・無菌服のクリーニング業によるものと、サプリメント製品の販売によるもので、1億8千9百万円となりました。

③ 研究開発活動

参天製薬グループは、中長期的な成長の源泉として研究開発を重視しており、眼科薬を中心とした積極的な臨床開発活動を進めています。

緑内障・高眼圧症領域において、プロスタグランジンF_{2α}誘導体DE-085（一般名：タフルプロスト）は、平成20年12月より日本で「タプロス点眼液」として販売中です。海外では欧州とアジアで自社販売しており、中国では製造販売承認を申請中です。また、平成21年4月のライセンス契約により、メルク社（米国）は、米国、西欧、ラテンアメリカ諸国などでタフルプロストを販売しています。この結果、タフルプロストの販売国は、全世界で60カ国以上となっています。また、防腐剤を含まない1回使い切りタイプのDE-118（一般名：タフルプロスト）は、平成25年10月より日本で「タプロスミニ点眼液」として販売しています。

緑内障・高眼圧症を適応症とする配合剤DE-111（一般名：タフルプロスト／チモロールマレイン酸塩）は、平成25年9月に日本において製造販売承認を取得しました。また、欧州において製造販売承認を申請中です。緑内障・高眼圧症を適応症とするEP2受容体作動薬DE-117（一般名：未定）は、米国で後期第Ⅱ相試験を準備中です。

角結膜疾患（ドライアイを含む）領域において、DE-089（一般名：ジクアホソルナトリウム）は、平成22年12月より日本で「ジクアス点眼液」として販売しています。また、韓国では平成25年10月より販売しています。中国では製造販売承認を申請中です。遷延性角膜上皮欠損を適応症とするDE-105（一般名：未定）は、事業性の観点から開発を中止しました。

網膜・ぶどう膜疾患領域において、DE-102（一般名：ベタメタゾン）は、糖尿病黄斑浮腫と網膜静脈分枝閉塞症に伴う黄斑浮腫を対象に第Ⅱ相／第Ⅲ相試験を日本で実施中です。ぶどう膜炎を適応症とするDE-109（一般名：シロリムス）は、米国、日本、欧州で第Ⅲ相試験を実施中です。また、DE-120（一般名：未定）は、滲出型加齢黄斑変性を対象に第Ⅰ相／前期第Ⅱ相試験を米国で開始しました。

アレルギー性結膜炎を適応症としたDE-114（一般名：エピナスチン塩酸塩）は、平成25年11月に日本において「アレジオン点眼液」として発売しました。

関節リウマチを適応症とするDE-098（一般名：未定）は、日本での第Ⅱ相試験の結果を踏まえ、次の開発計画を検討中です。

サンテン・エス・エー・エス（連結子会社）の臨床開発品について、Cyclokat（開発品名：シクロカット、一般名：シクロスポリン、製品名：「Ikervis」（アイケルビス））は、重症ドライアイを適応症として欧州で平成25年12月に製造販売承認を申請しました。春季カタルを適応症とするVekacia（開発品名：ベカシア、一般名：シクロスポリン）は、欧州で第Ⅲ相試験を実施中です。

（注）サンテン・エス・エー・エスは、平成25年4月、ノバガリ・ファーマ・エス・エー・エスから社名変更しました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期末の資産は、前連結会計年度末と比べ191億9百万円増加し、2,187億5千万円となりました。現金及び預金、受取手形及び売掛金、有価証券および投資有価証券の増加などが要因です。

負債は、前連結会計年度末と比べ58億2千5百万円増加し、403億3千2百万円となりました。買掛金、未払法人税等の増加、退職給付に関する会計基準等の適用による退職給付に係る負債の増加などが要因です。なお、役員退職慰労金制度を6月をもって廃止したことに伴い、役員退職慰労引当金を固定負債その他に振替えています。

純資産は、前連結会計年度末と比べ132億8千4百万円増加し、1,784億1千7百万円となりました。退職給付に関する会計基準等の適用による退職給付に係る調整累計額の減少などがありましたが、利益剰余金、為替換算調整勘定の増加などが要因です。

以上の結果、自己資本比率は、前連結会計年度末と比べ1.2ポイント減少し、81.4%となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第3四半期末までの営業活動によるキャッシュ・フローは、160億3千8百万円の収入となりました。税金等調整前四半期純利益は238億7千1百万円であり、売上債権の増加が83億3千万円、法人税等の支払いが69億7千3百万円、たな卸資産の減少が32億8千3百万円あったことなどによります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、59億4千6百万円の支出となりました。投資有価証券の取得による支出が42億1千8百万円、固定資産の取得による支出が35億4千8百万円あったことなどによります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、79億2千6百万円の支出となりました。配当金の支払いが81億4千6百万円あったことなどによります。

以上の結果、現金及び現金同等物の当四半期末残高は、前連結会計年度末と比べ37億3千2百万円増加し、635億2千9百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年3月期からの国際会計基準（IFRS）任意適用に伴う平成26年3月期における当社グループの決算期統一の影響および医療用医薬品事業の売上成長が見込まれることより、平成25年11月6日に公表した平成26年3月期の連結業績予想を次のとおり変更することにしました。

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	141,500	26,300	26,800	18,200	215 72
今回修正予想（B） （決算期統一後）	149,000	26,500	27,500	17,500	207 43
増減額（B－A）	7,500	200	700	△700	△8 29
増減率	5.3%	0.8%	2.6%	△3.8%	—

（ご参考：決算期統一前）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	141,500	26,300	26,800	18,200	215 72
今回修正予想（B） （決算期統一前）	146,000	27,500	28,500	18,500	219 28
増減額（B－A）	4,500	1,200	1,700	300	3 56
増減率	3.2%	4.6%	6.3%	1.6%	—
前期実績	119,066	24,681	25,602	16,520	195 81

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

なお、当第3四半期連結会計期間より、参天医薬販売（蘇州）有限公司およびサンテン・ファーマシューティカル・アジア・プライベート・リミテッドを新たに設立したため、連結の範囲に含めています。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

（減価償却方法の変更）

従来、当社および国内子会社は、有形固定資産の減価償却方法について、定率法（ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）については定額法）を採用していましたが、第1四半期連結会計期間より定額法に変更しています。

当社グループでは、2011年度から2013年度の中期経営計画において、生産・品質管理の徹底、ならびにグローバルレベルでの生産ラインの効率化の推進と再編により、中長期的な視点で高い競争力を有する製品の供給体制の構築を目標に掲げています。その実現のため、大阪工場の生産機能、生産技術、および原材料調達等の機能の滋賀プロダクトサプライセンターへの移管を中心とした設備投資や海外拠点における生産体制の見直しを進めてきました。2013年度から滋賀プロダクトサプライセンターが当社グループの生産の中核拠点として稼働を開始するなど、新たなグローバル生産体制と今後の安定的な製品供給体制が整備されました。

このグローバル生産体制最適化を契機に、有形固定資産の使用実態を見直した結果、安定した設備の稼働が見込まれること、また、グループとしてグローバルに効率的かつ安定的な資源配分を行えるようになったことから、有形固定資産の減価償却方法に関する会計方針をグループ内で定額法に統一することが、有形固定資産の使用実態をより適切に反映するものと判断しました。

この結果、従来の方によった場合と比較して、当第3四半期連結累計期間の減価償却費は535百万円減少し、営業利益は409百万円増加し、経常利益および税金等調整前四半期純利益はそれぞれ417百万円増加しています。

なお、セグメント情報に与える影響は、「3. 四半期連結財務諸表（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項（セグメント情報等）」に記載しています。

（退職給付に関する会計基準等の適用）

「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下、「退職給付会計基準」といいます。）および「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日）が平成25年4月1日以後開始する連結会計年度の期首から適用できることになったことに伴い、第1四半期連結会計期間よりこれらの会計基準等を適用し、退職給付債務から年金資産の額を控除した額を退職給付に係る負債として計上する方法に変更し、未認識数理計算上の差異を退職給付に係る負債に計上しました。また、当社は、退職給付債務および勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更するとともに、割引率の決定方法についても、従業員の平均残存勤務期間に近似した年数に基づく割引率から、退職給付の支払見込期間および支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更しました。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な扱いに従って、当第3四半期連結累計期間の期首において、退職給付債務から年金資産の額を控除した額を退職給付に係る負債として計上したことに伴う影響額をその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に加減しています。また、退職給付債務および勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を当第3四半期連結累計期間の期首の利益剰余金に加減しています。

この結果、当第3四半期連結累計期間の期首のその他の包括利益累計額が1,713百万円減少し、利益剰余金が227百万円増加しています。また、当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微です。

なお、セグメント情報に与える影響は軽微であるため、記載を省略しています。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	50,884	54,625
受取手形及び売掛金	43,840	52,684
有価証券	11,007	12,410
商品及び製品	16,703	14,014
仕掛品	624	540
原材料及び貯蔵品	3,620	3,727
繰延税金資産	1,880	1,432
その他	4,022	4,369
貸倒引当金	△1	△2
流動資産合計	132,582	143,802
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	42,807	44,755
減価償却累計額及び減損損失累計額	△29,379	△30,554
建物及び構築物（純額）	13,427	14,200
機械装置及び運搬具	11,920	13,347
減価償却累計額及び減損損失累計額	△10,336	△10,998
機械装置及び運搬具（純額）	1,584	2,348
土地	8,240	8,269
リース資産	251	284
減価償却累計額及び減損損失累計額	△93	△135
リース資産（純額）	158	148
建設仮勘定	2,454	1,112
その他	11,833	12,660
減価償却累計額及び減損損失累計額	△10,278	△10,622
その他（純額）	1,554	2,038
有形固定資産合計	27,420	28,118
無形固定資産		
のれん	5,936	6,252
仕掛研究開発	6,767	7,780
ソフトウェア	1,150	1,242
その他	269	360
無形固定資産合計	14,123	15,636
投資その他の資産		
投資有価証券	18,173	23,601
繰延税金資産	4,460	4,241
その他	2,879	3,350
投資その他の資産合計	25,513	31,193
固定資産合計	67,057	74,948
資産合計	199,640	218,750

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,266	10,915
未払金	9,868	9,086
未払法人税等	3,038	4,611
賞与引当金	3,085	1,961
返品調整引当金	104	132
その他	1,647	2,848
流動負債合計	27,011	29,556
固定負債		
リース債務	87	63
繰延税金負債	2,269	2,606
退職給付引当金	3,664	—
役員退職慰労引当金	248	—
退職給付に係る負債	—	5,888
事業構造改善引当金	—	784
資産除去債務	160	225
その他	1,066	1,207
固定負債合計	7,496	10,776
負債合計	34,507	40,332
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,080	7,209
資本剰余金	7,775	7,903
利益剰余金	151,001	158,382
自己株式	△2	△8
株主資本合計	165,855	173,487
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,920	4,460
為替換算調整勘定	△2,967	1,623
退職給付に係る調整累計額	—	△1,565
その他の包括利益累計額合計	△1,047	4,518
新株予約権	324	411
純資産合計	165,132	178,417
負債純資産合計	199,640	218,750

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	88,425	108,946
売上原価	29,755	42,571
売上総利益	58,669	66,374
販売費及び一般管理費	38,096	42,740
営業利益	20,572	23,633
営業外収益		
受取利息	50	52
受取配当金	440	508
その他	359	302
営業外収益合計	850	863
営業外費用		
支払利息	3	5
為替差損	45	93
減価償却費	—	85
その他	104	14
営業外費用合計	153	200
経常利益	21,269	24,297
特別利益		
固定資産処分益	16	—
投資有価証券売却益	—	473
特別利益合計	16	473
特別損失		
固定資産処分損	9	17
施設利用権評価損	—	1
事業構造改善費用	—	880
特別損失合計	9	899
税金等調整前四半期純利益	21,276	23,871
法人税、住民税及び事業税	5,875	8,328
法人税等調整額	1,265	167
法人税等合計	7,140	8,495
少数株主損益調整前四半期純利益	14,136	15,376
四半期純利益	14,136	15,376
少数株主損益調整前四半期純利益	14,136	15,376
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△157	2,540
為替換算調整勘定	△67	4,590
退職給付に係る調整額	—	148
その他の包括利益合計	△225	7,279
四半期包括利益	13,910	22,656
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	13,910	22,656
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	21,276	23,871
減価償却費	1,920	2,060
のれん償却額	471	584
投資有価証券売却損益 (△は益)	—	△473
事業構造改善費用	—	880
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	107	—
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	—	131
受取利息及び受取配当金	△491	△561
支払利息	3	5
売上債権の増減額 (△は増加)	△4,235	△8,330
たな卸資産の増減額 (△は増加)	13	3,283
仕入債務の増減額 (△は減少)	△544	1,572
その他	△2,561	△578
小計	15,961	22,446
利息及び配当金の受取額	501	568
利息の支払額	△1	△2
法人税等の支払額	△10,255	△6,973
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,206	16,038
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△464	△67
定期預金の払戻による収入	589	67
有価証券の取得による支出	△301	△604
有価証券の売却及び償還による収入	2,136	1,906
固定資産の取得による支出	△2,283	△3,548
固定資産の売却による収入	30	2
投資有価証券の取得による支出	△3,027	△4,218
投資有価証券の売却による収入	—	512
その他	0	3
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,321	△5,946
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	△13,763	△5
配当金の支払額	△8,369	△8,146
その他	269	225
財務活動によるキャッシュ・フロー	△21,863	△7,926
現金及び現金同等物に係る換算差額	174	1,566
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△18,803	3,732
現金及び現金同等物の期首残高	75,035	59,797
現金及び現金同等物の四半期末残高	56,231	63,529

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

1. 前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他 (注)	計	調整額	四半期連結 損益及び包括 利益計算書 計上額
	医薬品				
売上高					
外部顧客への売上高	86,811	1,614	88,425	—	88,425
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	86	86	△86	—
計	86,811	1,700	88,512	△86	88,425
セグメント利益又は損失(△)	21,003	△430	20,572	—	20,572

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントで、医療機器事業などが含まれています。

2. 当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

(1) 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他 (注)	計	調整額	四半期連結 損益及び包括 利益計算書 計上額
	医薬品				
売上高					
外部顧客への売上高	106,821	2,124	108,946	—	108,946
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	93	93	△93	—
計	106,821	2,218	109,040	△93	108,946
セグメント利益又は損失(△)	23,996	△363	23,633	—	23,633

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントで、医療機器事業などが含まれています。

(2) 報告セグメントの変更等に関する事項

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

会計方針の変更に記載のとおり、従来、当社および国内子会社は、有形固定資産の減価償却方法について、定率法(ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)については定額法)を採用していましたが、第1四半期連結会計期間より定額法に変更しています。

この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べ、当第3四半期連結累計期間のセグメント利益が、医薬品事業で408百万円増加し、その他の事業への影響額は軽微です。

4. 連結参考資料
 (1) 主要製品売上高

(単位:百万円)

品目名 有効成分・剤形	薬効分類	平成25年3月期		平成26年3月期	
		第3四半期 累計実績	通期実績	第3四半期 累計実績	通期見込
クラビット点眼液 レボフロキサシン点眼液	合成抗菌点眼剤	8,681 (△13.7)	10,857 (△12.2)	9,396 (8.2)	12,806 (18.0)
タリビッド点眼液 オフロキサシン点眼液	合成抗菌点眼剤	1,464 (△6.4)	1,830 (△5.3)	1,485 (1.4)	1,979 (8.1)
タプロス点眼液 タフルプロスト点眼液	緑内障治療剤	6,113 (8.8)	7,872 (7.1)	6,974 (14.1)	8,929 (13.4)
コソプト配合点眼液 ドルゾラミド塩酸塩/チモロールマレイン酸塩点眼液	緑内障治療剤	6,797 (46.8)	9,006 (43.6)	9,226 (35.7)	11,800 (31.0)
チモプトール点眼液 チモロールマレイン酸塩点眼液	緑内障治療剤	1,096 (△20.2)	1,366 (△19.7)	947 (△13.6)	1,159 (△15.2)
チモプトールXE点眼液 チモロールマレイン酸塩持続性点眼液	緑内障治療剤	1,653 (△14.0)	2,085 (△13.3)	1,541 (△6.8)	1,923 (△7.8)
デタントール点眼液 ブナゾシン塩酸塩点眼液	緑内障治療剤	1,402 (△9.3)	1,734 (△11.9)	1,188 (△15.2)	1,304 (△24.8)
レスキュラ点眼液 イソプロピル ウノプロストン点眼液	緑内障治療剤	1,781 (△10.0)	2,243 (△9.3)	1,687 (△5.3)	2,187 (△2.5)
アレジオン点眼液 エピナスチン塩酸塩点眼液	抗アレルギー 点眼剤	- -	- -	877 -	2,907 -
リボスチン点眼液 レボカバスチン塩酸塩点眼液	抗アレルギー 点眼剤	1,827 (△1.3)	4,036 (20.6)	1,371 (△24.9)	2,318 (△42.6)
ヒアレイン点眼液 ヒアルロン酸ナトリウム点眼液	角結膜疾患治療剤	16,745 (△3.4)	21,159 (△4.8)	16,596 (△0.9)	21,722 (2.7)
ジクアス点眼液 ジクアホルナトリウム点眼液	角結膜疾患治療剤	4,037 (109.2)	5,563 (95.5)	5,732 (42.0)	7,986 (43.6)
フルメロン点眼液 フルオロメロン点眼液	抗炎症点眼剤	3,008 (△0.9)	4,447 (9.2)	2,853 (△5.2)	3,828 (△13.9)
カリーユニ点眼液 ピレノキシシン点眼液	老人性 白内障治療剤	2,973 (1.7)	3,765 (2.1)	3,008 (1.2)	4,108 (9.1)
オペガンハイ眼粘弾剤 ヒアルロン酸ナトリウム眼科手術補助剤	眼科手術補助剤	2,236 (△5.6)	2,842 (△5.8)	2,242 (0.3)	3,001 (5.6)
アイリーア硝子体内注射液 アフリベルセプト(遺伝子組換え)硝子体内注射液	眼科用VEGF阻害剤	654 -	3,183 -	13,327 (1,935.0)	17,249 (441.9)
リマチル錠 ブシラミン錠	抗リウマチ剤	2,587 (△11.2)	3,253 (△11.4)	2,482 (△4.1)	3,057 (△6.0)
アザルフィジンEN錠 サラゾスルファピリジン腸溶錠	抗リウマチ剤	2,960 (△6.7)	3,767 (△6.5)	2,989 (1.0)	3,568 (△5.3)
メレート錠 メトレキサート錠	抗リウマチ剤	1,565 (21.1)	2,040 (19.6)	1,863 (19.0)	2,590 (27.0)
一般用医薬品		5,197 (44.5)	6,474 (40.8)	4,951 (△4.7)	6,509 (0.6)

下段: 対前期伸長率(%)

※上記の予想等は、現在において入手可能な情報に基づいて作成しています。実際の業績等は、事業環境変化などにより、大きく結果が異なる可能性があります。

(2) 医薬品開発状況

■ 医薬品開発状況一覧表(臨床段階)

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
タフルプロスト	DE-085	緑内障・高眼圧症	旭硝子と共同開発	アジア 中国						2010年3月 2011年1月
<p>プロスタグランジンF_{2α}誘導体の緑内障・高眼圧症治療剤。2008年12月、日本で発売。欧州では、ドイツ、デンマーク等で発売。2009年4月、米国等での開発権をメルク社(米国)に許諾。アジアでは2010年3月以降、香港、韓国、インドネシア、シンガポール等で発売。中国で承認申請中。</p>										
ジクアホソルナトリウム	DE-089	ドライアイ	インスパイア	韓国 中国						2013年10月 2012年1月
<p>角結膜上皮からムチンや水分の分泌を促すドライアイ治療剤。既存薬と異なる作用機序を持つ。2010年12月より日本にて発売。2013年10月、韓国にて発売。中国では承認申請中。</p>										
ロメリジン塩酸塩	DE-090	緑内障	MSD	日本						
<p>視野欠損の進行抑制作用を有する新しい緑内障治療剤。カルシウム拮抗作用に基づく経口緑内障薬としては、唯一の開発薬剤。NMDA受容体拮抗剤と異なり、全身性の副作用が軽微であり、高い安全性を有する。</p>										
ベタメタゾン	DE-102	糖尿病およびBRVO*に伴う黄斑浮腫	オークウッドと共同開発	日本			(フェーズ2/3)			
<p>ドラッグデリバリーシステムの概念を取り入れたマイクロスフェア製剤で、局所投与により安定した薬効持続性を期待。商業用スケールでの製造技術開発でオークウッド社(米国)と提携。*BRVO:網膜静脈分枝閉塞症</p>										
シロリムス	DE-109	ぶどう膜炎	自社	米国 日本 欧州						
<p>免疫抑制作用、血管新生抑制作用などを有する硝子体内注射剤。米国・日本・欧州でフェーズ3試験を実施中。</p>										
タフルプロスト／チモロールマレイン酸塩	DE-111	緑内障・高眼圧症	旭硝子と共同開発 共同開発	日本 欧州						2013年9月 2013年6月
<p>プロスタグランジンF_{2α}誘導体およびβ遮断剤の配合剤。欧州にて製造販売承認を申請中。2013年9月、日本にて製造販売承認を取得。</p>										
エピナスチン塩酸塩	DE-114	アレルギー性結膜炎	日本ベーリンガーインゲルハイム	日本						2013年11月
<p>H₁拮抗作用と膜安定化作用を併せ持つアレルギー性結膜炎治療剤。2013年11月、日本にて発売。</p>										
未定	DE-117	緑内障・高眼圧症	宇部興産と共同開発	米国			フェーズ2b準備中			
<p>新規メカニズムのEP2受容体作動薬。米国でフェーズ2b試験を準備中。</p>										

■医薬品開発状況一覧表(臨床段階)

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
タフルプロスト	DE-118	緑内障・高眼圧症	旭硝子と共同開発	日本						2013年10月
プロスタグランジンF _{2α} 誘導体の緑内障・高眼圧症治療剤。防腐剤を含まない、1回使い切りタイプの製剤。2013年10月、日本で発売。										
一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
未定	DE-120	滲出型加齢黄斑変性	自社	米国	(フェーズ1/2a)					
VEGFおよびPDGFの阻害作用(デュアル阻害剤)を有する硝子体内注射剤。2014年1月、米国でフェーズ1/2a試験を開始。										
一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
未定	DE-098 (抗APO-1抗体)	関節リウマチ	ヤンセン バイオテック	日本						
関節リウマチ患者の罹病関節内でアポトーシスを誘導する関節注入剤。フェーズ2試験の結果を踏まえ、次の開発計画を検討中。										

■サンテン・エス・エー・エス開発品の状況(臨床段階)

一般名	開発品名	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
シクロスポリン	Cyclokot (シクロカット)	重症ドライアイ 免疫抑制作用により、重症ドライアイの他覚所見及び自覚症状を改善する乳化点眼剤。カチオニック製剤技術により組織移行性を高めた製剤。	自社	欧州				2013年12月		
				米国						
シクロスポリン	Vekacia (ベカシア)	春季カタル 免疫抑制作用により、春季カタルの症状を改善する乳化点眼剤。カチオニック製剤技術により組織移行性を高めた製剤。	自社	欧州						
ラタノプロスト	Catioprost (カチオプロスト)	緑内障・高眼圧症 プロスタグランジンF _{2α} 誘導体の、緑内障・高眼圧症治療用乳化点眼剤。	自社	欧州						
デキサメタゾン パルミチン酸エステル	Cortiject (コルチジェクト)	糖尿病黄斑浮腫 抗炎症作用を有する硝子体内注射剤。	自社	米国	(フェーズ1/2)					

※カチオプロスト、コルチジェクトの2品は、事業性について評価中。

■2013年度第2四半期発表時(2013年11月6日)からの変更点

開発コード / 品名	変更点
DE-114	2013年11月、「アレジオン点眼液」として発売(日本)
シクロカット	2013年12月、製造販売承認を申請(欧州)
DE-117	フェーズ2b試験を準備中(米国)
DE-120	2014年1月、フェーズ1/2a試験を開始(米国)
DE-105	事業性の観点から開発中止

(3) 設備投資、減価償却費および研究開発費の実績ならびに見込額

■設備投資

(単位:百万円)

	平成25年3月期		平成26年3月期	
	第3四半期 累計実績	通期実績	第3四半期 累計実績	通期見込
設備投資額	2,594	4,202	2,083	3,400

■減価償却費

(単位:百万円)

	平成25年3月期		平成26年3月期	
	第3四半期 累計実績	通期実績	第3四半期 累計実績	通期見込
総額	1,835	2,530	1,830	2,500
製造経費	884	1,211	925	1,220
販売管理費	394	533	446	650
研究開発費	556	785	458	630

(注)のれんおよび長期前払費用の償却費は除いています。

■研究開発費

(単位:百万円)

	平成25年3月期		平成26年3月期	
	第3四半期 累計実績	通期実績	第3四半期 累計実績	通期見込
研究開発費	12,099	16,719	12,498	19,500
対売上高比	13.7%	14.0%	11.5%	13.1%

※上記の予想等は、現在において入手可能な情報に基づいて作成しています。実際の業績等は、事業環境変化などにより、大きく結果が異なる可能性があります。